

穂学

令和元年度
広州日本人学校 学校便り
[No. 17]
令和元年12月4日(水)
発行責任者 校長 喜屋武浩司

「人権週間」

国際連合は、1950年の総会において12月10日を「世界人権デー」と定め、人権活動を推進するための諸行事を行うよう決議をしました。また、12月4日から同月10日までの1週間は「人権週間」と定め、全国各地においてシンポジウム、講演会、座談会、映画会等を開催するほか、テレビ・ラジオなど各種のマスメディアを利用した集中的な人権啓発活動が行われています。

本校においても、12月3日(火)の全体集会で、思いやりの心や人権について考える時間を設けました。

まず最初に、さかなクンが書いた「さかなのなみだ」という絵本が紹介されました。この物語は、さかなクン本人が中学生の時に受けたいじめの体験と、狭い水槽の中で起こる魚の世界でのいじめを重ね合わせます。「大切な友だちができる時期、小さなカゴのなかでだれかをいじめたり、悩んでいたりしても、楽しい思い出はのりません。」といじめのつらさや友だちを大切にしたい気持ちを訴えています。

次に、校長講話として香港日本人学校中学部2年生の村瀬広高さんが書いた「**国境を越えて**」という作文を紹介しました。タイで生まれ、シンガポール、香港、インド、日本、そしてまた香港と、様々な国で遊びを通して仲良くなった友だちのことに触れ、お互いを理解し合おうと思う気持ちが一番大切だと気づきます。「気持ちの国境をこえるのにパスポートはいらない。これからは日本人としてではなく地球人として生きていこうと思う。」と力強くまとめています。

児童生徒もみんな真剣に二つの話を聞いていました。差別はその人の一部しか見ていないこと、自分のやり方だけが正しいと思うから起きるのではないかと訴え、お互いのことを思いやる気持ちや理解しようとする気持ちの大切さを学んだと思います。

各学級では「**思いやりの木**」(右写真)に貼り付けるカードに、やってもらって嬉しかったことや、思いやりを感じた出来事を一人一枚書いてもらいます。まだ、作品は出来上がっていませんが、思いやりの木にたくさんの「思いやり」の花が咲くのを楽しみにしています。完成したら写真を付けてまた紹介したいと思います。

最後に生徒会役員の皆さんから、「あいさつプロジェクト」の呼びかけがありました。日常の学校生活で起こっているあいさつの現状を、「おじぎだけする人」「あいさつの声が小さい人」「おじぎもあいさつもやらない人」の三つのパターンで紹介しながら、明るい学校をつくっていきましょうと力強く訴えていました。相手を思いやる気持ちがあいさつにつながるとも素敵なプロジェクトですね。これからが楽しみです。



<お知らせ> 令和2年度の日程について、
4月10日(金)着任式・始業式、4月13日(月)入学式
以上のお通り、決定したことをお知らせいたします。
なお、年間行事の詳細は、1月末にあらためてお知らせいたします。